

## 2. 畑作物

### (1) 麦類

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アクチノールB乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	2回以内(アイキシニル2回以内)	
エコパートフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期、ヤムガラ2~6節期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニエチル2回以内)	小麦(秋播)
	雑草茎葉散布又は全面散布	大麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニエチル2回以内)	大麦
ガレース乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
ガレースG	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦(秋播栽培)
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
キックボクサー細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(プロスルホカルブ <sup>®</sup> 2回以内、リニuron1回)	小麦(秋播)
			1回(プロスルホカルブ <sup>®</sup> 2回以内、リニuron1回)	大麦(秋播)
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種直後~麦出芽前	1回(プロメリン2回以内、ベンチオカーブ <sup>®</sup> 1回)	
粒状石灰窒素55	散布	は種前	1回	
トレファノサイド粒剤2.5	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~3葉期(雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内(トリフルリン2回以内)	
トレファノサイド乳剤	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~生育期(雑草発生前~雑草発生始期)但し、収穫45日前まで	2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
	全面土壌散布	生育期(雑草発生前)但し、収穫45日前まで	2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
ハーモニー75DF	雑草茎葉散布又は全面散布	<一年生広葉雑草>節間伸長開始期~穂ばらみ期(但し収穫45日前)	1回(チフェンスルフロメチル1回)	小麦
		<スズメノテッポウ>は種後~節間伸長前	1回(チフェンスルフロメチル1回)	大麦
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫90日前まで)	1回(ヘンタゾン1回)	麦類(小麦を除く)
	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫45日前まで)	1回(ヘンタゾン1回)	小麦

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ボクサー	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	2回以内(フロルホカルブ2回以内)	大麦
	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	2回以内(フロルホカルブ2回以内)	小麦
リベレーターG	全面土壌散布	は種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦(秋播栽培) 大麦(秋播栽培)
リベレーターフロアブル	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦 大麦(秋播栽培)
ロロック	全面土壌散布	は種後～発芽前(雑草発生前～発生始期)	1回(リニuron1回)	麦類(秋播)
MCPソーダ塩	雑草茎葉散布又は全面散布	(秋播麦類)幼穂形成期(但し、収穫45日前まで)	1回(MCPA1回)	麦類

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	

(2) とうもろこし(スイートコーン)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エコトップ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト <sup>®</sup> 及びジメナミト <sup>®</sup> P1回、リニuron1回)	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ペンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテイマトリン1回、リニuron1回)	
ゲザノンゴールド	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前) 生育期(とうもろこし2～4葉期)	1回(アトラジン1回、メトラクロール及びS-メトラクロール1回)	
ゲザプリムフロアブル	全面土壌散布及び雑草茎葉散布	は種後～とうもろこし2～4葉期まで	1回(アトラジン1回)	
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテイマトリン1回)	
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテイマトリン1回)	
ブリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫45日前まで)	5回以内(ジクワット5回以内)、パルコート5回以内)	とうもろこし(子実)
	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫3日前まで)		未成熟とうもろこし

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラッソー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(アラクロール1回)	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後	1回(リニロン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

### (3) だいで

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アタックショット乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	本葉2葉期～開花前(雑草生育期)(但し、収穫45日前まで)	1回(フルアセットメチル1回)	
エコトップP乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト及びジメナミトP1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
エコトップ粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト及びジメナミトP1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
クリアターン細粒剤F	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ベンチカーブ1回、ペンテメタリン1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ベンチカーブ1回、ペンテメタリン1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(プロモトリン1回、ベンチカーブ1回)	
セレクト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫50日前まで)	1回(クレトジム1回)	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(トリフルリン2回以内(但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内))	
	全面土壌混和	は種前		
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(セトキシジム1回)	

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
バスタ液剤	雑草茎葉散布	耕起前・は種前・は種後出芽前・定植5日前まで(雑草生育期) 収穫28日前まで(畦間処理:雑草生育期) (株間処理:本葉5葉期以降、雑草生育期)	2回以内(ケルチネット3回以内)	
フルミオWDG	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(フルミオザン1回)	
プロールプラス乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミドおよびジメナミドP1回、ペンテイメタリン1回、リニユロン2回(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ポルトフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~10葉期(但し、収穫30日前まで))	2回(キサロホップエチル2回)	
ラクサー粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ラクサー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後~出芽前(雑草発生前~発生始期)	1回(リニユロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫60日前まで)	1回(フルアジホップP1回)	
大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	だいたいの2葉期~開花前(雑草の生育初期~6葉期)(但し、収穫45日前まで)	1回(ペンタゾン2回以内(但し、畦間処理は1回以内))	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)	2回以内(ケリホサート4回以内)	

#### (4) そば

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(セトキシジム1回)	

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	2回以内(グリホサート2回以内)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

#### (5) なたね

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後	1回(トリフルリン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

#### (6) 陸稲

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンデメタリン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

## 2. 畑作物

### (1) 麦類

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アクチノールB乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	2回以内(アイキシニル2回以内)	
エコパートフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期、ヤムガラ2~6節期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニエチル2回以内)	小麦(秋播)
	雑草茎葉散布又は全面散布	大麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニエチル2回以内)	大麦
ガレース乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
ガレースG	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦(秋播栽培)
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
キックボクサー細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(プロスルホカルブ <sup>®</sup> 2回以内、リニエロン1回)	小麦(秋播)
			1回(プロスルホカルブ <sup>®</sup> 2回以内、リニエロン1回)	大麦(秋播)
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種直後~麦出芽前	1回(プロメリン2回以内、ベンチオカーブ <sup>®</sup> 1回)	
粒状石灰窒素55	散布	は種前	1回	
トレファノサイド粒剤2.5	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~3葉期(雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内(トリフルリン2回以内)	
トレファノサイド乳剤	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~生育期(雑草発生前~雑草発生始期)但し、収穫45日前まで	2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
	全面土壌散布	生育期(雑草発生前)但し、収穫45日前まで	2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
ハーモニー75DF	雑草茎葉散布又は全面散布	<一年生広葉雑草>節間伸長開始期~穂ばらみ期(但し収穫45日前)	1回(チフェンスルフロメチル1回)	小麦
		<スズメノテッポウ>は種後~節間伸長前	1回(チフェンスルフロメチル1回)	大麦
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫90日前まで)	1回(ヘンタゾン1回)	麦類(小麦を除く)
	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫45日前まで)	1回(ヘンタゾン1回)	小麦

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ボクサー	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	2回以内(フロスルホカルブ2回以内)	大麦
	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	2回以内(フロスルホカルブ2回以内)	小麦
リベレーターG	全面土壌散布	は種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦(秋播栽培) 大麦(秋播栽培)
リベレーターフロアブル	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦 大麦(秋播栽培)
ロロック	全面土壌散布	は種後～発芽前(雑草発生前～発生始期)	1回(リニユロン1回)	麦類(秋播)
MCPソーダ塩	雑草茎葉散布又は全面散布	(秋播麦類)幼穂形成期(但し、収穫45日前まで)	1回(MCPA1回)	麦類

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	

(2) とうもろこし(スイートコーン)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エコトップ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト <sup>®</sup> 及びジメナミト <sup>®</sup> P1回、リニユロン1回)	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ペンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテイマトリン1回、リニユロン1回)	
ゲザノンゴールド	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前) 生育期(とうもろこし2～4葉期)	1回(アトラジン1回、メトラクロール及びS-メトラクロール1回)	
ゲザプリムフロアブル	全面土壌散布及び雑草茎葉散布	は種後～とうもろこし2～4葉期まで	1回(アトラジン1回)	
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテイマトリン1回)	
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテイマトリン1回)	
ブリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫45日前まで)	5回以内(ジクワット5回以内)、パラボート5回以内)	とうもろこし(子実)
	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫3日前まで)		未成熟とうもろこし



薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラッソー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(アラクロール1回)	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後	1回(リニロン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

### (3) だいで

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アタックショット乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	本葉2葉期～開花前(雑草生育期)(但し、収穫45日前まで)	1回(フルアセットメチル1回)	
エコトップP乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト <sup>®</sup> 及びジメナミト <sup>®</sup> P1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
エコトップ粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト <sup>®</sup> 及びジメナミト <sup>®</sup> P1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
クリアターン細粒剤F	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ベンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテメタリン1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ベンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテメタリン1回、リニロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(プロトリン1回、ベンチカーブ <sup>®</sup> 1回)	
セレクト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫50日前まで)	1回(クレトジム1回)	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(トリフルリン2回以内(但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内))	
	全面土壌混和	は種前		
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(セトキシジム1回)	



薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
バスタ液剤	雑草茎葉散布	耕起前・は種前・は種後出芽前・定植5日前まで(雑草生育期) 収穫28日前まで(畦間処理:雑草生育期) (株間処理:本葉5葉期以降、雑草生育期)	2回以内(ケルチネット3回以内)	
フルミオWDG	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(フルミオザン1回)	
プロールプラス乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト <sup>®</sup> およびジメナミト <sup>®</sup> P1回、ペンテイメタリン1回、リニユロン2回(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ポルトフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~10葉期(但し、収穫30日前まで))	2回(キサ <sup>®</sup> ロホップ <sup>®</sup> エチル2回)	
ラクサー粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ラクサー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後~出芽前(雑草発生前~発生始期)	1回(リニユロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫60日前まで)	1回(フルアジ <sup>®</sup> ホップ <sup>®</sup> P1回)	
大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	だいずの2葉期~開花前(雑草の生育初期~6葉期)(但し、収穫45日前まで)	1回(ペンタゾン2回以内(但し、畦間処理は1回以内))	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)	2回以内(ケリホサート4回以内)	

#### (4) そば

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(セトキシジム1回)	

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	2回以内(グリホサート2回以内)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

#### (5) なたね

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後	1回(トリフルリン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

#### (6) 陸稲

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンデメタリン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

## ア 畑作物雑草防除体系

※単位は全て10a当たり

耕耘栽培（普通播、ドリル播、全層播等）

### ア 雑草が少ない場合

は種後	ガレースG	4～5kg
	ガレース乳剤	200～250ml
	ボクサー	400～500ml
	キックボクサー細粒剤F	3～4kg
	リベレーターG	4～5kg
	リベレーターフロアブル	60～80ml
	トレファノサイド乳剤	200～300ml
	トレファノサイド粒剤2.5	4～5kg
	ロロックス	150～200g
サターンバアロ乳剤	600～750ml	

### イ アブラナ科帰化雑草（ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ、ツノミナズナ）

は種後	ガレースG	4～5kg	ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ
	ガレース乳剤	200～250ml	→ 越冬後～麦茎立期（2下～3上）
			ハーモニー75DF 5～10g
			ツノミナズナ
			→ 越冬後（2下）
			エコパートフロアブル 50～100ml

### ウ ヤグルマギク（キク科帰化雑草）

麦類は種1ヶ月後～越冬前（12中下）	アクチノールB乳剤	200ml
残草がある場合	→ 越冬前～越冬後（12下～2中）	バサグラン液剤 200ml

### エ ノハラジャク（セリ科帰化雑草）

越冬後（2月） ハーモニー75DF 10g

### オ オオブタクサ（キク科帰化雑草）

小麦幼穂形成期 MCPソーダ塩 300g

### カ 他の雑草が多い場合

は種後	同上	→	越冬後～麦茎立期
			（2下～3中）

麦類

※単位は全て10a当たり

とうもろこし (スイートコーン・子実用とうもろこし・加工用とうもろこし)	は種後	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロロックス 150g</li> <li>ラッソー乳剤300mℓ</li> <li>クリアターン乳剤 600～800mℓ</li> <li>エコトップ乳剤 500～600mℓ</li> </ul>	<b>生育期</b> ゲザプリムフロアブル 100～200mℓ ゲザノンゴールド 140～260mℓ 中耕培土	(注) 1. 残存雑草または再発生雑草が多い場合は、生育期処理剤として、ゲザプリムフロアブルまたはゲザノンゴールドが使用できる。ただし、これら両剤を土壌処理剤として使用した場合は、中耕培土を行う。 2. 飼料用とうもろこしは「7. 飼料作物・牧草参照」。
	は種後 出芽前	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴーゴーサン乳剤 200～300mℓ</li> <li>ゴーゴーサン細粒剤F 5～6kg</li> </ul>	→ 同上	
	は種後	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲザプリムフロアブル 100～200mℓ</li> <li>ラッソー乳剤300mℓ</li> </ul>	→ 中耕培土	
雑草生育期 プリグロックスL 600～1000mℓ(畦間処理)				

※単位は全て10a当たり

	【全面土壌散布】	【雑草茎葉散布】
だ い ず  ※ は種後	<b>【イネ科雑草が多い場合】</b> * エコトップP乳剤 400～600mℓ * エコトップ粒剤 4～6kg ラクサー乳剤 400～600mℓ ラクサー粒剤 4～6kg フルミオWDG 10g クリアターン乳剤 500～800mℓ クリアターン細粒剤F 4～5kg ロロックス 100～200g * サターンバアロ乳剤 600～800mℓ トレファノサイド乳剤 200～300mℓ プロールプラス乳剤 500～600mℓ	生育期（イネ科雑草3～10葉期） ポルトフロアブル 200～300mℓ 生育期（イネ科雑草3～5葉期） ワンサイドP乳剤 75～100mℓ ナブ乳剤 200mℓ セレクト乳剤 35～50mℓ
	<b>【広葉雑草が多い場合】</b> * エコトップP乳剤 400～600mℓ * エコトップ粒剤 4～6kg ラクサー乳剤 400～600mℓ ラクサー粒剤 4～6kg フルミオWDG 10g ロロックス 100～200g クリアターン乳剤 500～800mℓ クリアターン細粒剤F 4～5kg	生育初期～6葉期 *大豆バサグラン液剤 100～150mℓ <b>【マルバルコウ（帰化アサガオ類）がある場合】</b> 4葉期 *大豆バサグラン液剤 150mℓ *アタックショット乳剤 50mℓ つる伸長始期まで バスタ液剤 500mℓ
	<b>【帰化アサガオ類が多い場合】</b> は種前 トレファノサイド乳剤 300mℓ 散布直後に耕起すること。	以降、上記の【マルバルコウ(帰化アサガオ類)がある場合】と同じとするが、カヤツリグサ科、キク科が多いほ場では、は種後～出芽前に効果の高い他の土壌処理型除草剤を散布すること。
(注) *印はえだまめには使用できない。 栽培様式および雑草発生量により中耕培土と組み合わせる ※「は種後」については薬剤によって「は種直後」「は種後出芽前」など使用時期が異なる 農薬登録に記載の使用時期を守ること。		

麦類	[参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
大豆	[参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
そば	生育期（イネ科雑草3～5葉期） ナブ乳剤150～200ml [参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
なたね	は種直後 トレファノサイド乳剤200～300ml＋中耕培土
陸稲	[参考農薬] は種後出芽前 ゴーゴーサン乳剤 200～400ml

# イ 作物別除草剤の使用法

## 【表 類】

作物名	防除時期 および 処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
麦類	は種前	一年生雑草	石灰窒素 (石灰窒素55.0%) 50kg	1. 石灰窒素には窒素成分として21%含有するため、小麦の品種によっては過繁茂となる危険性があるため施肥管理に留意すること。
	は種後麦発芽前 全面土壌散布	畑地一年生雑草	ガレースG (ジフルフェニカン 0.15%、トリフルリン 2%) 4~5kg	1. アブラナ科帰化雑草（ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ、ツノミナズナ）に対しては、ガレースGおよび乳剤の効果が高い。ツノミナズナ以外にはハーモニーDF75、ツノミナズナにはエコパートフロアブルとの体系処理を行う。 2. キックボクサー細粒剤Fは土壤水分が高い場合、低温により麦類生育が遅延する場合には軽微な薬害が発生することもあるが、その後の生育、収量に大きな影響はない。 3. リベレーターGは、ネズミムギに対する密度抑制効果がある。 4. ボクサーは小麦2葉期処理で軽微な薬害（葉の白化）が生じることがあるが、その後の生育、収量に影響はない。 5. リベレーターG、リベレーターフロアブルは、初期に軽微な薬害（葉の黄白斑）が発生することもあるが、その後の生育、収量に影響はない。 6. 南信地方、沖積、砂壤土または雨の多い年には各除草剤の使用量の少ない量を、火山灰土の場合は多い量を使用する。 7. 粒剤を使用する場合は土壌を極力細かく砕土し、無風の時に均一に散布する。土壌の過湿のときは使用しない。 8. トレファノサイド乳剤及び粒剤は既に発生した雑草には効果がない。 9. トレファノサイド乳剤及び粒剤は広葉雑草に対して効果が劣るので、主としてイネ科雑草の優占圃場で使用する。 10. ロロックスはイネ科雑草に対する効果がやや劣るので、主として広葉雑草の優占圃場で使用する。 11. サターンバアロ乳剤を使用する時は雑草の発生前に使用する。 12. サターンバアロ乳剤は覆土が不完全な場合は薬害が発生することがある。 13. *印を付けた、トレファノサイド粒剤2.5、トレファノサイド乳剤、サターンバアロ乳剤以外の剤は、小麦、大麦以外の麦類（えんばくやライ麦など）には使用できない。詳しくは適用一覧を参照する。 14. 適用土壌は、ガレースG、ガレース乳剤、キックボクサー細粒剤F、リベレーターGは全土壌（砂土を除く）、トレファノサイド粒剤2.5では砂壤土~壤土で、それ以外の薬剤には制限はない。
		一年生雑草	ガレース乳剤 (ジフルフェニカン 3.7%、トリフルリン 37%) 200~250ml・100ℓ	
		一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	* トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルリン 2.5%) 4~5kg	
			* トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200~300ml・100ℓ	
		一年生雑草	ロロックス (リニユロン 50%) 150~200g・100ℓ	
		* サターンバアロ乳剤 (ベンチカーブ 50%、プロマトリン 5%) 600~750ml・100ℓ		
	は種後~麦2葉期まで(雑草発生前~雑草発生始期) 全面土壌散布	一年生雑草	ボクサー (プロスホルカブ 78.4%) 400~500ml・70~100ℓ	
	は種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで) 全面土壌散布	一年生雑草	リベレーターG (ジフルフェニカン 0.20%、フルフェナセット 0.60%) 4~5kg	
	は種後~麦3葉期まで(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで) 雑草茎葉散布または全面土壌散布	一年生雑草	リベレーターフロアブル (ジフルフェニカン 8.4%、フルフェナセット 33.6%) 60~80ml・100ℓ	



作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
麦類	麦穂ばらみ期まで（雑草生育初期） 雑草茎葉散布	一年生広葉雑草	* アクチノールB乳剤 (アイキシニル 30%) 100～200ml・70～100l	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナに対しては、雑草ロゼット径4cmまでのハーモニー75DFの茎葉散布が有効である。</li> <li>ツノミナズナに対しては、雑草ロゼット径3cmまでのエコパートフロアブルの茎葉散布による体系処理が有効である。</li> <li>ヤグルマギクに対しては、雑草ロゼット径5cm程度までのアクチノールB乳剤の茎葉散布が有効である。残草がある場合にはバサグラン液剤を体系散布する。</li> <li>ノハラジャク（セリ科）に対しては、本葉5葉期までにハーモニー75DFの効果が高い。</li> <li>ハーモニー75DFは、スズメノテッポウに対しては5葉期まで、ヤエムグラに対しては6節までに使用すると効果が高い。</li> <li>オオブタクサに対しては、本葉2葉期までのMCPソーダ塩の茎葉散布が有効である。</li> <li>降雨の前後や露のある時は効果が劣るので日中に散布する。</li> <li>展着剤は加用しない。</li> <li>高温が続き、麦の生長が大きい場合には葉害が発生することがあるので散布はさける。</li> <li>アクチノールB乳剤は魚毒に注意する。</li> <li>ハーモニー75DFは微量で高活性であるので、消石灰を用いるなど散布後ただちに洗浄を丁寧に行う（添付説明書の内容厳守）。</li> <li>*印の付けた、アクチノールB乳剤、バサグラン液剤（ナトリウム塩）以外の剤は、小麦、大麦以外の麦類（えんばくやライ麦など）には使用できない。詳しくは適用一覧を参照する。</li> </ol>
	広葉雑草2～4葉期・小麦、大麦節間伸長開始期まで（但し、収穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生広葉雑草	エコパートフロアブル (ピラフルフェニチル2%) 50～100ml	
	は種後～節間伸長前 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	ハーモニー75DF (フェニトロメチル 75%) 5～10g・100l	
	麦類の生育期（雑草の3～6葉期）（但し、大麦は収穫90日前まで、小麦は収穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生広葉雑草（イネ科を除く）	* バサグラン液剤（ナトリウム塩） (ベンザンナトリウム塩40.0%) 100～200ml・70～100l	
	小麦幼穂形成期 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生及び多年生広葉雑草	MCPソーダ塩 (MCPAナトリウム塩19.5%) 300g・100l	
	耕起前またはは種前まで（雑草生育期） 雑草茎葉散布	一年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩48%) 200～500ml	
一年生雑草及び多年生イネ科雑草			通常散布 50～100l 少量散布 25～50l	

【とうもろこし】

作物名	防除時期 および 処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
とうもろこし（スイートコーン・子実用とうもろこし・加工用とうもろこし）	は種後（雑草発生前） 全面土壌散布	一年生雑草	クリアターン乳剤 （ベンチオカーブ 50%、ペンテメタリン 5%、リニロン 7.5%） 600～800mℓ・100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴーゴーサン乳剤30、ゴーゴーサン細粒剤Fは、キク科雑草及びビツユクサに効果が劣るので、これら雑草の優占圃場では使用しない。</li> <li>2. ゴーゴーサン細粒剤Fのスイートコーンについては、長野県では試験をしていない。</li> <li>3. 適用土壌はクリアターン乳剤、エコトップ乳剤では全土壌（砂土を除く）で、それ以外の剤は制限なし。</li> </ol>
	は種後出芽前（雑草発生前） 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤 （ペンテメタリン 30%） 200～300mℓ・100ℓ	
			ゴーゴーサン細粒剤F （ペンテメタリン2%） 5～6kg	
	は種後 全面土壌散布		ロロックス （リニロン 50%） 150g・100ℓ	
	播種後～出芽前 全面土壌散布	一年生雑草	ラッソー乳剤 （アラクロール 43%） 300mℓ・100ℓ	
	は種後出芽前（雑草発生前） 全面土壌散布		エコトップ乳剤 （ジメナミド 14%、リニロン 12%） 500～600mℓ・100ℓ	
	生育期（とうもろこし2～4葉期） 全面土壌散布	一年生雑草	ゲザノンゴールド （アトラジン 27.8%、S-メトラコロール 26.4%） 140～260mℓ、70～100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土壌処理剤として、ゲザプリムフロアブルまたはゲザノンゴールドを使用した場合は、使用回数の制限から、これら両剤の生育期処理はできない。</li> <li>2. イネ科雑草に対しては、葉齢が進むと効果が劣るので時期を失ないように散布する。</li> <li>3. ゲザノンゴールドの生育期処理はスイートコーンについては、長野県では試験をしていない。</li> <li>4. 展着剤は加用しない。</li> <li>5. 適用土壌はゲザプリムフロアブルでは全土壌（砂土を除く）、ゲザノンゴールドでは制限なし。</li> </ol>
は種後～とうもろこし2～4葉期まで 全面土壌散布及び雑草茎葉散布	ゲザプリムフロアブル （アトラジン 45%） 100～200mℓ、70～100ℓ			
とうもろこし生育期 畦間雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL （ジクワッドジプロミド 7%、パラコートジクロリド 5%） 600～1000mℓ、100～150ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作物にかからないよう噴口に飛散防止カバーをつける。</li> </ol>	

【だいず】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
だいず	は種後出芽前 (雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	* エコトップP乳剤 (ジメナミトP 8.5% リニユロン 12%) 400~600mℓ・100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>フルミオWDGは、マルバルコウに対する発生密度低下効果があり、有効な生育期茎葉処理除草剤との体系防除を行う。マメアサガオに対してはマルバルコウに比べ防除効果が低い。イネ科雑草には効果が低いため、イネ科雑草に有効な除草剤を使用する。</li> <li>フルミオWDGは微量で活性が高いため、散布時の噴霧器の圧力を適正に調整するとともに、風速に注意し、飛散を防止する。作業後は「フルミオWDG洗浄剤による洗浄方法」(メーカー提供)に従い、機械類の洗浄を徹底し、廃液を適切に処理する。</li> <li>*印を付けた、サターンバアロ乳剤、エコトップP乳剤、エコトップ粒剤は、えだまめには使用できない。</li> <li>乾燥条件では効果が劣るので、プロールプラス乳剤、クリアターン乳剤、ロロックス、サターンバアロ乳剤は希釈水量を多くする。また、特に粒剤では耕起およびは種後速やかに、または、土壌水分が高い時間帯等に散布する。</li> <li>クリアターン細粒剤F、エコトップ粒剤、ラクサー乳剤は粒径および比重が異なるため、散布器具の調整に注意する。</li> <li>サターンバアロ乳剤は、広葉雑草の多い場合は薬量の多い方を適用する。</li> <li>トレファノサイド乳剤はイネ科一年生雑草の優占する圃場で使用するのが効果的である。</li> <li>トレファノサイド乳剤をは種前に土壌混和する場合は、散布直後に耕起を行うこと。</li> <li>適用土壌はエコトップP乳剤、エコトップ粒剤、ラクサー乳剤、ラクサー粒剤、プロールプラス乳剤、クリアターン乳剤、クリアターン細粒剤Fでは全土壌(砂土を除く)、それ以外の剤は制限なし。</li> </ol>
			* エコトップ粒剤 (ジメナミトP 1.6% リニユロン 1.4%) 4~6kg	
			ラクサー乳剤 (アラクロール 30.0% リニユロン 12.0%) 400~600mℓ・100ℓ	
			ラクサー粒剤 (アラクロール 4.0% リニユロン 1.04%) 4~6kg	
			プロールプラス乳剤 (ジメナミトP 6.7% ヘンデイメタリン 6.5% リニユロン 11.4%) 500~600mℓ・70~150ℓ	
	一年生広葉雑草	フルミオWDG (フルミオサジン50.0%) 10g・100ℓ		
	は種直後(雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	クリアターン乳剤 (ベンチカーブ 50%ヘンデイメタリン 5% リニユロン 7.5%) 500~800mℓ・70~100ℓ	
			クリアターン細粒剤F (ベンチカーブ 8%ヘンデイメタリン 0.8% リニユロン 1.2%) 4~5kg	
	は種直後~出芽前(雑草発生前~発生始期) 全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス (リニユロン 50%) 100~200g・70~150ℓ	
	は種後出芽前 全面土壌散布	一年生雑草	* サターンバアロ乳剤 (プロメトリン 5% ベンチカーブ 50%) 600~800mℓ・70~100ℓ	
は種前	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) は種前300mℓまたはは種後出芽前 全面土壌散布200~300mℓ・ 100ℓ		
は種後出芽前 全面土壌散布				

作物名	防除時期 および 処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
だ い ず	雑草生育期（イネ科雑草3～10葉期）（但し、収穫30日前まで） 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ポルトフロアブル （キサロホップエチル 7.0%） 200～300ml・100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>発芽または移植後イネ科雑草の多い場合に散布する。広葉雑草には効果がない。</li> <li>イネ科作物にかからないようにする。</li> <li>処理後に中耕培土しても効果に変わらない。</li> <li>ポルトフロアブルはイネ科雑草の葉齢および出穂の有無により薬量を定める。8葉期までで出穂がない場合は200ml、8葉期で出穂個体がある場合は200～300ml、9～10葉期で出穂個体がある場合には300mlとする。イネ科雑草の葉身および葉鞘の退色、枯死始めまでに1週間程度を要する。</li> <li>効果は遅効性で枯死までにナブ乳剤で7～10日、ワンサイドP乳剤で2～3週間かかる。</li> <li>ポルトフロアブルは魚毒に注意する。</li> </ol>
	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫30日前まで） 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ナブ乳剤 （セトキシム 20%） 200ml・通常散布50～150ℓ、少量散布25～50ℓ	
	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫60日前まで） 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ワンサイドP乳剤 （フルアジホップP 17.5%） 75～100ml・25～100ℓ	
	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期（但し収穫50日前まで） 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	セレクト乳剤 （クレトジム 24%） 35～50ml・100ℓ	

作物名	防除時期 および 処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
だいず	大豆の2葉期～ 開花前（雑草の 生育初期～6葉 期）（但し、収 穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生雑 草（イネ 科を除 く）	*大豆バサグラン液剤（ナトリウ ム塩） （ベンザンナトリウム塩 40%） 100～150mℓ・100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (*印) えだまめには使用できない。</li> <li>2. は種後の土壌処理型除草剤との体系で処理する。</li> <li>3. 帰化アサガオ類のうちマルバルコウには、大豆は種2週間後以降のマルバルコウ4葉期までに薬剂量は150mlとして処理する。マメアサガオには効果が不安定である。両草種とも再生、後発があった場合には、バスタ液剤との体系処理を行う。</li> <li>4. ヒユ、シロザには効果が不安定である。アメリカセンダングサには4葉期までに処理する。</li> <li>5. イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草が混在する場合は、これらに有効な除草剤との体系で使用する。</li> <li>6. 散布後、曇天、降雨が続くと効果が劣るので、散布後の天候に留意して散布すること。</li> <li>7. 大豆の品種や処理時の条件によっては、散布時に展開していた葉に黄化、褐変、萎縮などの一過性の薬害症状が発生する場合がある。</li> <li>8. 県内の奨励普及品種の中で「あやこがね」は薬害が発生しやすいので処理時の条件に留意し、処理後の高温が予想される場合は使用しない。</li> <li>9. 著しい高温が続く場合、日照が強く蒸散が盛んな場合、大豆が生育不良の場合薬害を助長することがあるので使用を避ける。</li> </ol>

作物名	防除時期 および 処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈水量	注意事項
だいず	本葉2～4葉期 (雑草生育期) (但し、収穫45 日前まで) 雑草茎葉散布又 は全面散布)	一年生広 葉雑草	*アタックショット乳剤 (フルチアセットメチル2.0%) 30～50ml・100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>(*印) えだまめには使用できない。</li> <li>は種後の土壌処理型除草剤との体系で処理する。</li> <li>薬剂量は、帰化アサガオ類に対しては50ml、その他草種に対しては30～50mlとし、雑草の草丈10cm以下までに使用する。</li> <li>帰化アサガオ類に対する防除効果は、マルバルコウには安定的だが、処理後の再生状況により体系処理を行う。マメアサガオには不安定であるため体系処理を前提とする。</li> <li>シロザ、ヒユ類、イチビ等に対する効果は高いが、キク科、カヤツリグサ科、タデ類には効果が劣るためこれらが優先する場合は使用を避ける。</li> <li>処理時に展葉していた大豆葉には処理翌日から褐斑、褐点を生じるものの、その後の生育、収量には大きく影響しない。ただし、大豆の生育不良等の条件では、生育が抑制される場合もある。</li> <li>「すずほまれ」、「ギンレイ」、「ナカセンナリ」、「すずろまん」、「あやみどり」への適応が可能である。</li> <li>薬害を助長するので、イネ科雑草対象剤等の茎葉処理型除草剤の混用、展着剤の加用は行わない。</li> </ol>
	雑草生育期 は種前 収穫28日前まで の畔間処理・株 間処理 雑草茎葉散布	一年生雑 草	バスタ液剤 (ガルホシート18.5%) 300～500ml・100～150ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>帰化アサガオ類に対しては、大豆バサグラン液剤との体系処理とし、大豆は種1ヶ月後以降の蔓伸長始期までに、薬剂量は500mlとして畦間および株間散布する。</li> <li>バスタ液剤は非選択性除草剤である。畔間散布および株間散布で使用する場合、大豆の(特に葉)に薬液が付着すると薬害(褐変、枯死)が生ずるので、飛散防止ノズルやカバーの使用、噴霧圧力の調節を行い、無風条件で散布するなど、飛散防止に努める。</li> <li>バスタ液剤の畔間散布および株間散布では、雑草が大豆より大きく繁茂した場合、散布作業が困難となり、薬害の危険が増すので、適期散布を徹底する。</li> </ol>
	耕起前または出 芽前まで (雑草生育期)雑 草茎葉散布	一年生雑 草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48%) 200～500ml・通常散布50～100ℓ、少量散布25～50ℓ	<ol style="list-style-type: none"> <li>魚毒に注意する。</li> </ol>

### 【そば】

作物名	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈 水量	注意事項
そば	雑草生育期イネ科雑草3～5葉期(但し、収穫30日前まで)雑草茎葉散布又は全面散布	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤 (セトキシジム 20%) 150～200ml・通常散布50～150ℓ、少量散布25～50ℓ	1. 隣接は場のイネ科作物(イネ、ムギ類、とうもろこし等)にかからないように散布する。 2. 効果は遅効的で、枯死まで7～10日かかる。また広葉雑草には効果がない。
	耕起前または種前まで(雑草生育期)雑草茎葉散布	一年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード(グリホサートカリウム塩 48%) 200～500ml・(一年生雑草)通常散布50～100ℓ、少量散布5～50ℓ、(多年生雑草)通常散布50～100ℓ、少量散布25～50ℓ	1. 少量散布では専用ノズルを使う。
多年生雑草			1. 少量散布では専用ノズルを使う。	

### 【なたね】

作物名	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈 水量	注意事項
なたね	は種直後全面土壌散布	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200～300ml・100ℓ	1. 既に発生した雑草には効果がないので、発生前に処理する。 2. 揮散を少なくするため、日射の弱い夕刻や曇天時、無風のときに散布する。 3. 広葉雑草の多い畑、腐植含量の多い土、重粘土壌では薬量を多めに、砂土では少なめにする。

### 【陸稲】

作物名	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類 成分 10a当たり使用量・希釈 水量	注意事項
陸稲	は種後出芽前全面土壌散布	一年生雑草	[参考農薬] ゴーゴーサン乳剤 (ペンデメタリン 30.0%) 200～400ml・70～150ℓ	